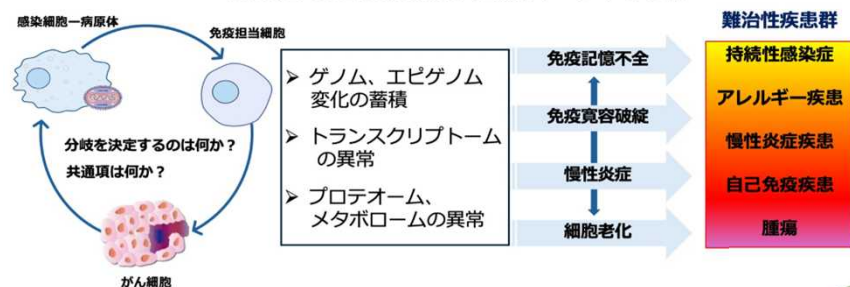


免疫ダイナミクス解析コホート・AI を駆使して難治性疾患に挑む Physician Scientist 育成と研究力向上計画

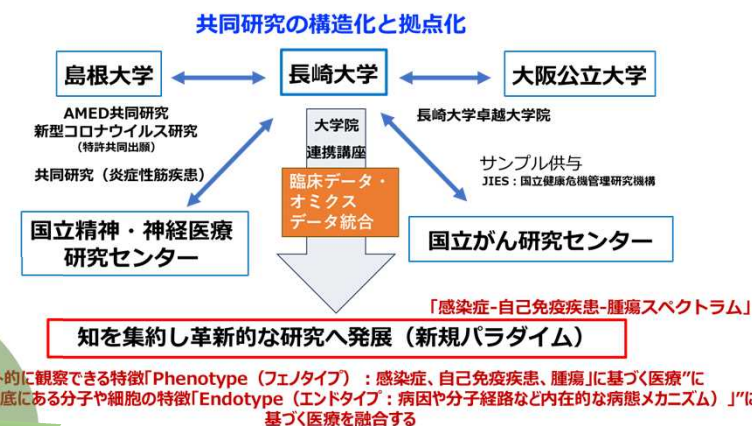
代表機関：長崎大学 連携機関：島根大学、大阪公立大学
協力機関：国立がん研究センター、国立精神・神経医療研究センター

疾患コホート・オミクス解析から見える「感染症-自己免疫疾患-腫瘍スペクトラム」



- ・免疫応答の動態解析で難治性疾患の本質を解明する
- ・次世代のPhysician Scientistを育成する
- ・AIとオミクス技術を融合し、難治性疾患の本質的な診断・治療へつなぐ

学際的研究基盤 - 高解像度オミクス解析とデータ共有体制



事業終了後の研究環境の維持： 研究環境を“本当に持続可能”にするには？

①人材の育成・継続雇用

有能な人材は継続or次の雇用先
例 プロジェクト終了後も、学内
他部局（教育・情報・病院）に
勤務・兼務

常勤職や専門職制度を大学でつくる
ことで、「人材が循環し成長していく組
織」へ

②予算の自立化

学内予算に計上 or 複数年度で
使える研究支援枠の設計

間接経費の一定割合を“研究支援
専用”に充てる制度を設計

他の外部資金（AMED・JSPS・共
同研究講座など）に繋がる仕組みを
並行して整備

③組織の制度化

熟慮ある個人の“頑張り”でなく、大学
としての「組織」が担当

研究支援センターを学則上の正式部
署に

研究支援の実績を研究者や支援者
の人事評価に反映

「一過性ではなく、“仕組み”として続く研究支援体制をいま、築く」

「感染症-自己免疫疾患-腫瘍スペクトラム」： 複雑かつ横断的な疾患領域研究を遂行

